

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告

1 概況

(1) 神奈川労務安全衛生協会（以下「当協会」という）は、公益社団法人として

- ① 労働安全衛生法に基づく技能講習、特別教育の実施
- ② 労働基準法、労働安全衛生法及び関係法令の普及啓発活動
- ③ 労働福祉向上のための相談、調査研究及び広報

3つの事業目的を掲げ、事業場における労働災害のない職場づくり、従業員の心身両面にわたる健康づくり、だれもが安心して健康で働くことができる社会の実現に努めてきた。

併せて、神奈川県下の事業場における労働災害の防止、健康保持増進、適正な労働条件の確保等のための活動を促進し、公益目的事業を推進してきた。

昨年(平成 26 年)11 月 18 日には藤沢市民会館で「神奈川労務安全衛生大会」を開催し、各事業場から約 500 名が参加して労務安全衛生功労者の表彰を行うとともに事業目的に沿った大会宣言を採択して盛会裏に終了した。

(2) 平成 26 年の神奈川県内における労働災害の発生状況は、平成 27 年 3 月末現在で、死亡者数は 32 人と前年同期比 12 人減少した。一方休業 4 日以上之死傷者数は 6,639 人と前年同期比 2.4%増加した。中でも製造業は、死亡者数 8 人と前年同期比 3 人増、死傷者数は 1,076 人と対前年比 4.0%増加し、極めて厳しい状況になっている。引き続き平成 27 年も「第 12 次労働災害防止推進計画」に基づく減少目標の達成に向けて、推進計画で示された重点業種対策をはじめとする施策を確実に実施していかなければならない。

(3) 平成 26 年度の経済情勢は、消費税 8%への引き上げ以降 GDP 速報値がマイナス成長となり、消費税再引き上げを延期する状況となったが、その後の金融政策による円安株高など、景気回復が伺える動きが見えてきている。一方、神奈川県は足取りが鈍いものの景気回復の兆しが見えてきており、雇用情勢は有効求人倍率が 3 月で 0.89 となっている。

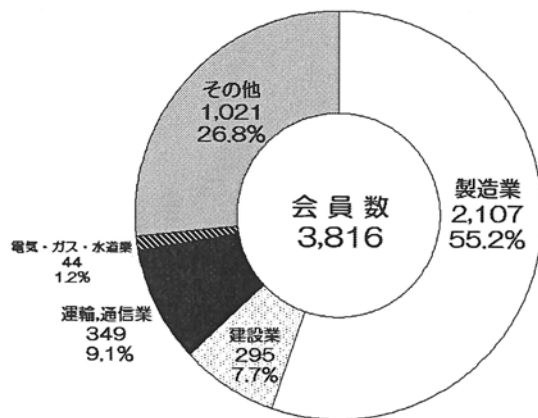
当協会の主要事業である教育事業は、平成 26 年度実績が年間で延べ 424 回の講習開催となっており、受講者総数で 18 千名余となっている。

平成 26 年度の決算は、経常収益が 530 百万円、経常費用が 520 百万円となっており、正味財産が 9 百万円増となっている。事業収入の柱となっている技能講習収入が 299 百万円となっており、技能講習収入増に取り組むとともに費用の抑制に努め、事業収支改善を図ってきた。

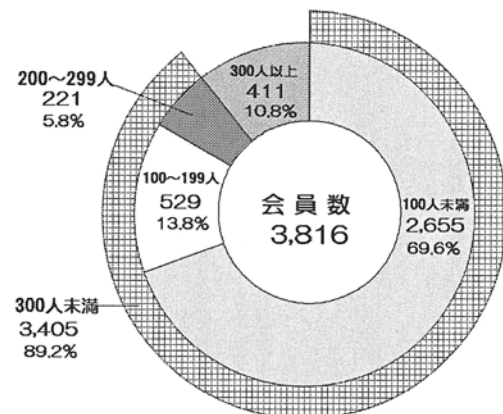
当協会の財務状況は、正味財産期末残高が 774 百万円で、基本財産と特定資産を合わせた資産合計が 683 百万円となっている。公益会計基準に則って財政基盤の安定と収支相償の事業運営を目指している。

(4) 平成 26 年度末の当協会会員数は 3,816 事業場となっており、従業員数は約 57 万人となっている。平成 26 年度の入会は 68 会員、退会は 137 会員であった。会員の内訳を見ると、業種別では製造業が約 55%、規模別では 300 人未満で約 90%、さらに 100 人未満では約 70%となっている。

1. 業種別会員数



2. 規模別会員数



公益社団法人として、会員事業場のみならず神奈川県下の各事業場に呼びかけ公益目的事業を展開し、広く社会的評価が得られるような事業活動をしてきた。併せて神奈川県のご指導をいただきながら、法令遵守のガバナンスと公益会計基準に則った財務運営を目指して取り組んできた。

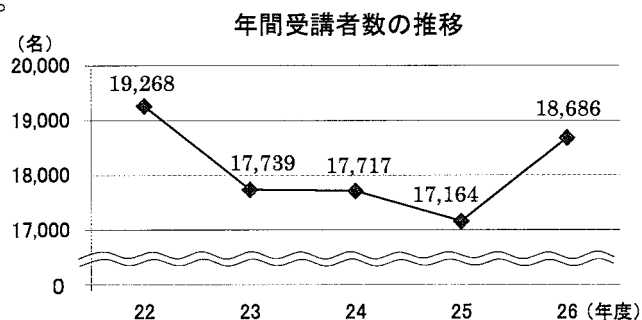
2 主要事業報告

【1】教育事業

神奈川県労働局の登録教習機関として、法定の作業主任者技能講習や技能講習を中心に、特別教育や能力向上教育等を含め講習会を開催し、厳正・適正に実施しており、労働安全衛生法及び関係法令の普及・啓発に努めている。この教育事業は、講師・講習内容において高い信頼を得ており、県下教習機関で一番の実績を誇っている。

平成 26 年度の講習実績は、作業主任者技能講習を 107 回開催し、8,075 名が受講しており、技能講習は 164 回開催、4,886 名が受講している。特別教育及び能力向上教育等を加え全体で年間延べ 424 回開催、受講者総数 18,686 名の受講実績となっている。

特に受講希望者の多い作業主任者技能講習は専門性が高く、実務経験豊富な講師が担当しており信頼性の高い科目となっている。この作業主任者技能講習の中でも、「酸素欠乏・硫化水素危険」は 25 回、「特定化学物質及び四アルキル鉛等」は 27 回、「有機溶剤」は 24 回開催されており、3 科目合計で年間延べ 76 回開催、6,251 名が受講している。



平成 26 年度 科目毎の講習実績

講習名		回数	人員	講習名		回数	人員	
技能講習	プレス機械	6	242	特別教育	動力プレスの金型等の業務	6	159	
	乾燥設備	4	298		電気取扱業務	10	424	
	足場の組立て等	8	484		クレーンの運転の業務	11	671	
	建築物等の鉄骨の組立て等	1	19		研削といしの取替え等の業務	7	538	
	木材加工用機械	1	36		アーク溶接等の業務	7	364	
	はい	3	174		フォークリフト運転の業務	3	53	
	鉛	5	348		産業用ロボットの業務	5	273	
	酸素欠乏・硫化水素危険	25	2,065		第二種酸素欠乏危険作業	6	114	
	特定化学物質及び四アルキル鉛等	27	1,965		ダイオキシン類作業	5	186	
	有機溶剤	24	2,221		小計	60	2,782	
	石綿	3	223		能力向上教育等	安全管理者	1	13
	玉掛け	50	2,030			衛生管理者	1	19
	フォークリフトA・B	12	200			フォークリフト運転業務従事者	1	43
	フォークリフトC・D	63	1,165		小計	3	75	
ガス溶接	16	714	養成講習取得	第一種衛生管理者	7	421		
床上操作式クレーン運転	10	665		第二種衛生管理者	5	130		
高所作業車運転	13	112		エックス線作業主任者	2	77		
安全衛生推進者養成講習	21	590	小計	14	628			
衛生推進者養成講習	14	385	講習	局所排気装置等定期自主検査者	6	283		
安全管理者選任時研修	31	884		救急法(基礎+短期)	4	98		
小計	337	14,820	小計	10	381			
			計	424	18,686			

【2】 広報・啓発事業

安心・安全な職場づくりに向け労働関係法令の周知を図るとともに、第12次労働災害防止推進計画に基づく目標の達成と労働条件の確保・改善対策等に係る事項に注力して取り組んできた。実施にあたっては、神奈川労働局、神奈川県のご指導の下、神奈川産業保健総合支援センター、中央労働災害防止協会はじめ労働災害防止団体等と連携・協働して各種セミナーを実施してきた。

平成26年度は、労務安全衛生管理夏季講座や衛生管理担当者交流会をはじめ人事・労務管理セミナー、安全衛生管理実践セミナーなど年間延べ23回開催し、各事業場から多くの参加をいただき、928名の参加人員となっている。

各専門委員会は、労働基準行政の重点課題や労働災害発生状況等を踏まえて、タイムリーな企画や情報提供に心掛け各事業場に参加を呼びかけ研修会やセミナーを開催してきた。

このほか、全国労働基準関係団体連合会神奈川県支部として「新規起業事業場就業環境整備事業」などを推進してきた。

① 労務安全衛生管理夏季講座

平成26年7月16日 ホテル横浜ガーデン 参加者85名

② 神奈川衛生管理担当者交流会

平成26年12月1日 ホテル横浜ガーデン 参加者54名

【研修会・セミナー関係】

研修会・セミナー	回数	人員
産業保健研修会	1	28
人事・労務管理実践セミナー	6	174
特別セミナー（改正労働安全衛生法）	1	107
安全衛生管理実践セミナー	3	80
安全衛生実務レベルアップ教育	1	22
火災爆発災害防止講習会	1	95
労働衛生工学講座	2	87
総括安全衛生管理者セミナー	1	40
体験型機械設備の安全化研修	1	19
リスクアセスメント実務研修会 （リーダー向け、スタッフ向け）	2	33
腰痛予防セミナー	2	104
計	21	789

【3】 神奈川労務安全衛生大会

平成 26 年 11 月 18 日、「平成 26 年度 神奈川労務安全衛生大会」が藤沢支部・横浜西支部の担当で「藤沢市民会館」において約 500 名の参加の下、盛会裏に開催された。

大会には、ご来賓として水野神奈川労働局長、川合神奈川県産業労働局労働部長、武田藤沢市経済部長、関澤中央労働災害防止協会理事長をお迎えした。

開会に先立ち、労働災害で殉職された方々に哀悼の意を表して全員で黙祷を捧げたあと、当協会の大越副会長の開会の辞に続き、労務安全衛生功労者に協会長賞が授与され、支部別安全競争で優勝、準優勝、努力賞、向上賞がそれぞれ授与された。

戴会長の挨拶に続き、ご来賓の方々のご祝辞をいただき藤沢支部長による大会宣言が読上げられ、会場参加者の拍手で確認・採択された。

平成 26 年 11 月 18 日	藤沢市民会館	参加者 500 名
来賓挨拶	神奈川労働局長	水野 知親
〃	神奈川県産業労働局労働部長	川合 充
〃	藤沢市経済部長	武田 邦博
〃	中央労働災害防止協会理事長	関澤 秀哲
第一部 表彰式		
	労務安全衛生功労賞	54 名
	支部別安全競争 優勝・準優勝・努力賞・向上賞	当該支部
第二部 特別講演	アテネオリンピックサッカー日本代表監督	
	NHKサッカー解説者	山本 昌邦

【4】 機関誌・刊行物関係

協会機関誌「労務安全衛生かながわ」は、昭和 22 年 7 月 20 日に創刊され、季刊から月刊となり名称の変更などを経て、足掛け 68 年を迎えている。協会機関誌「かながわ」は、年 12 回発行しており、平成 27 年 10 月には 800 号を迎える。

「かながわ」は神奈川労働局をはじめとする監督諸官庁のご指導・ご協力により、労務管理や安全衛生に係る法令改正・通達や行政重点施策の周知・解説・災害事例の分析と再発防止策の紹介などタイムリーで幅広い情報が伝えられており、広報・啓発手段として大いに活用されている。また会員各事業場のご理解・ご協力により、監督官庁と会員事業場間あるいは会員事業場同志の情報交換・コミュニケーションの手段としても大いに活用され、会員事業場の管理レベルの向上と労務安全衛生施策の推進に寄与している。

- ① 協会機関誌「労務安全衛生かながわ」12 回発行（1 回発行部数約 7,800 部）
- ② 2015 年版労務安全衛生手帳 2,932 部
- ③ 各種テキスト改訂

【5】 会議報告

【 通常総会 】

平成 26 年 5 月 30 日、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズにおいて、通常総会を開催した。平成 25 年度事業報告及び決算報告の承認と平成 26 年度事業計画及び予算が報告承認された。

【 理事会 】

第 11 回	平成 26 年 4 月 24 日	第 12 回	平成 26 年 5 月 30 日
第 13 回	〃 11 月 18 日	第 14 回	〃 27 年 2 月 26 日

【 副会長会議 】

第 1 回	平成 26 年 4 月 11 日	第 2 回	平成 26 年 8 月 26 日
第 3 回	〃 10 月 15 日	第 4 回	〃 27 年 2 月 9 日

【 企画部会 】

第 1 回	平成 26 年 6 月 19 日	第 2 回	平成 26 年 8 月 28 日
第 3 回	〃 11 月 27 日	第 4 回	〃 27 年 2 月 19 日

【 支部連絡会議 】

第 1 回	平成 26 年 5 月 16 日	第 2 回	平成 26 年 7 月 24 日
第 3 回	〃 10 月 17 日	第 4 回	〃 12 月 12 日
第 5 回	〃 27 年 3 月 6 日		

【 資産運用委員会 】

第 1 回	平成 26 年 4 月 11 日	第 2 回	平成 26 年 8 月 26 日
第 3 回	〃 10 月 15 日	第 4 回	〃 27 年 2 月 9 日

【 役員候補者選出委員会 】

第 1 回 平成 26 年 4 月 11 日

【 関係団体会議 】

1. 神奈川労働局 神奈川メンタルヘルス対策推進連絡会議
2. 神奈川労働局 労働災害防止団体長会議
3. 中央労働災害防止協会 総会・理事会・業務連絡会議
4. (公社)全国労働基準関係団体連合会 総会・理事会・事務局長会議
5. (独)神奈川産業保健総合支援センター 産業保健総合支援センター運営協議会
6. 神奈川県交通安全対策協議会
7. 神奈川健康づくり推進会議

【6】 専門委員会活動報告

区分	内容 委員会名	基本方針	活動報告
総務部会	広報委員会	<p>労務管理・安全衛生管理に関する知識・技術の習得及び会員相互の情報交換に資するため、広報に関する企画立案を行うとともに、協会機関誌「労務安全衛生かながわ」を毎月発行する。</p>	<p>協会機関誌「労務安全衛生かながわ」を通巻782号～793号発行した。 編集にあたっては、読者に「読まれ」「親しまれ」「役立つ」を目指し、内容については神奈川労働局の広報記事、産業医等による健康アドバイス、専門委員会の活動情報、会員事業場の労務安全衛生への取組状況の紹介等幅広い情報を掲載した。</p>
	教育委員会	<p>会員事業場における労務・安全・衛生管理の充実を目的に、時代の要請に従い単に法令遵守に留まらず、危害防止の確立・責任体制の明確化及び自主的活動を促進する一助として、各種セミナー・講座等を企画立案し推進する。</p>	<p>労務安全衛生管理に関する諸問題を中心に時勢の変化に対応すべく教育内容の更なる充実を図った。 「第12次労働災害防止推進計画」に取り組んでいる中、労働災害は長期的には減少しつつあるが、更に抑制していくにあたっては、労働災害の大半が不安全行動により発生している実態に鑑み「ヒューマンエラー」をどのように管理していくかが最も重要なテーマとなっていることから「ヒューマンエラー防止対策」のテーマで「労務安全衛生管理夏季講座」第1分科会を担当した。</p>
	労働災害統計委員会	<p>労働災害統計の重要性について認識と理解を深め、提出率の向上と統計資料の有効活用を推進することにより災害防止の一助とする。</p>	<p>提出率の目標である50%を超える会員事業場の協力を得て半期毎の災害統計を集約し、分析結果を再発防止に活かすべく協会機関誌に掲載した。また、集約結果をもとに神奈川大会で支部別安全競争入賞支部を表彰した。</p>
労務部会	労務管理委員会	<p>会員事業場における労働条件の改善、労働福祉対策の推進、労働基準法をはじめとする労働関係法令の遵守、行政施策の周知を図る。</p>	<p>各社の労務管理や安全衛生上の課題及びハラスメント対策・職場における受動喫煙防止対策について情報交換を行った。 また、「労務安全衛生管理夏季講座」について第1分科会を担当した。</p>
第三次産業部会	卸売小売業委員会	<p>卸売小売業における労働者の適正な労働条件並びに安全と健康の確保対策の推進を図る。</p>	<p>三次産業における労働災害防止・メンタルヘルス対策について、情報交換を行った。</p>

区分	内容 委員会名	基本方針	活動報告
安 全 部 会	プレス委員会	プレス作業主任者技能講習をはじめ特別教育等を効果的に行い、プレス災害防止に努める。	委員が「プレス機械作業主任者技能講習」「動力プレスの金型等の業務に係る特別教育」の講師を担当した。 「プレス機械作業主任者技能講習」の講義資料(PPT)の見直しを行った。
	クレーン委員会	クレーン運転・玉掛け技能者の養成及び技能向上のため各種教育内容の充実を図り、実作業に即応するとともに講習等を通じ安全意識の高揚と災害防止対策の推進を図る。	委員が「床上操作式クレーン運転技能講習」「玉掛け技能講習」「クレーンの運転の業務に係る特別教育」の講師を担当し内容の充実を図った。 クレーン・玉掛け作業に係わる災害事例検討を行い、その結果を協会機関誌に掲載し災害防止対策を推進した。
	溶接委員会	ガス溶接及びアーク溶接の教育をより一層充実させ、溶接作業に係る災害の防止を推進する。	委員が「ガス溶接技能講習」「アーク溶接等の業務に係る特別教育」の講師を担当した。 アーク溶接特別教育用テキストの見直しを行った。
	電気委員会	電気による労働災害防止対策の一環として、労働安全衛生規則に基づく「電気取扱業務に係る特別教育」を行うとともに、電気災害防止の一層の推進を図るために方策を検討・実施する。	委員が「電気取扱業務に係る特別教育」の講師を担当した。 電気災害防止のための災害事例検討を行った。
	火災爆発災害対策委員会	会員事業場の火災爆発防止・安全管理レベルの向上に資するため、火災爆発防止に関する技術の調査研究を行い、ニーズに合った講習会の開催、情報の提供及び乾燥設備作業主任者技能講習を推進する。	「火災爆発災害防止講習会」を「『静電気による火災爆発防止対策の基礎と事故事例』～実験による静電気体験学習及び火災爆発事故事例とリスク管理～」のテーマで開催した。 火災・爆発災害事例研究を行い、その結果を協会機関誌に掲載した。 委員が「乾燥設備作業主任者技能講習」の講師を担当した。
	フォークリフト委員会	フォークリフト運転業務従事者の技能向上と安全及び日常点検の重要性を更に認識させるべく安全衛生教育内容の充実を図り、フォークリフト運転災害の防止を推進する。	委員が「フォークリフト運転技能講習」「フォークリフトの運転の業務に係る特別教育」「フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育」の講師を担当した。 フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育用テキストの見直しを行った。
	一般機械災害対策委員会	金属・木工等の加工機械（プレス及び新技術応用機械を除く）による災害防止のため、これらの機械を正しく取り扱うための安全衛生教育を行い、災害防止の活動を啓発推進する。	在来型災害（はさまれ、巻き込まれ、切れ、こすれ）防止対策の事例研究を行い機械を正しく取り扱う安全衛生教育を実施し、また事例研究を協会機関誌に掲載し啓発に努めた。

区分	内容 委員会名	基本方針	活動報告
労働衛生	保健対策委員会	産業医の立場で、働く人々の健康を確保するために、職場における健康障害リスクから労働者を保護し、それに関連する健康障害要因の予防を目的とした保健対策を展開する。	労働衛生専門職の総合力が発揮されるよう関連各専門委員会と連携協力を努め、産業保健分野の充実に寄与した。25年度実施した健康指針アンケートの結果を報告書にまとめ、機関誌等を通じて広報を行った。 委員が「第一種衛生管理者養成講習」「熱中症防止セミナー」及び労働衛生に係る技能講習の講師を担当した。
	労働衛生技術委員会	これからの作業環境管理・作業管理のあり方を、主として衛生工学的な面より調査・研究し、その成果の普及を図ることにより、職場の衛生管理水準の向上に寄与する。	「それで大丈夫？防じん、防毒マスクの正しい使用方法」「リスクアセスメントを活用した化学物質の管理」をテーマに「労働衛生工学講座」を2回開催した。 委員が「局所排気装置等定期自主検査者講習」「ダイオキシン類作業従事者特別教育」及び労働衛生に係る技能講習の講師を担当した。「『コントロール・バンディング』～誰でもできる化学物質リスクアセスメント支援ツール～」のテーマで「労務安全衛生管理夏季講座」第3分科会を担当した。
	衛生管理推進委員会	衛生管理者及び衛生管理担当者の事業場における適正かつ効果的活動支援のため研修会や情報交流会、能力向上教育を通して資質の向上を図る。	「衛生管理業務の課題と解決策」のテーマで「神奈川県衛生管理担当者交流会」を開催し、衛生管理者の役割についてグループディスカッションを中心に研修した。 「『コントロール・バンディング』～誰でもできる化学物質リスクアセスメント支援ツール～」のテーマで「労務安全衛生管理夏季講座」第3分科会を担当した。 神奈川県産業保健総合支援センターと共催で、「衛生管理実務講座」を開催した。 委員が「衛生管理者能力向上教育」及び労働衛生に係る技能講習の講師を担当した。
部会	産業保健活動委員会	<ol style="list-style-type: none"> 従業員が健康で安心して働くことができるよう、健康障害の予防及び健康の保持増進活動において、専門的立場から助言及び支援並びに関連する情報の提供等を行う。 産業保健職の資質の向上、役割の自覚及び専門分野でのレベルアップを図る。 各支部における産業保健活動の充実と活性化を図るために支部間の連携を密にし、かつ関連情報等の提供及び収集に努める。 	「労務安全衛生管理夏季講座」の第2分科会を担当し、「『ネット依存者』に対する企業の対応」のテーマで外部講師による講演を行った。 また、「成果が出ない人への食生活改善法」をテーマに「第84回 産業保健研修会」を開催した。 各支部における産業保健活動を広く推進するため、各支部内の活動を支援するとともに組織化を進めた。
	救急法指導委員会	救急救命・応急手当の最新の知識と技術を習得し、事業場等における安全思想とプレ・ホスピタルケアの必要性を養うとともに、労働災害防止と安全衛生教育の推進を図る。	「救急法講習（基礎+短期）」を開催し、救急法の普及と救急救命・応急手当の最新の知識と技術等の習得、技術向上に努めた。 委員が「酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習」の救急法実技の講師を担当した。

3 表 彰

(1) 協 会

平成 26 年度神奈川労務安全衛生大会の席上、次の方々及び支部を表彰した。

<労務安全衛生功労賞>

楠見 隆之	東京応化工業(株)相模事業所
加藤 良一	(株)新和製作所
清水 百合子	NECプラットフォームズ(株)
吉田 義生	あすか製薬(株)川崎事業所
浜田 裕貴	帝国通信工業(株)
野島 勇	富士電機(株)川崎工場
吉田 剛	味の素(株)川崎事業所
浅見 清	昭和電工川崎安全衛生協力会
今泉 豊	キリンビール(株)横浜工場
千手 弥生	三菱レイヨン(株)横浜事業所
大滝 康憲	太平洋製糖(株)
佐藤 敏夫	(株)田代鉄工所
中島 由紀子	パナソニックシステムネットワークス(株)
高木 雅昭	宝電機工業(株)
扇 義人	(株)横浜銀行
佐々木 洋文	日興運送(株)
山崎 俊哉	日本通運(株)横浜支店
松本 文雄	東洋電機製造(株)横浜製作所
円子 裕	(株)東芝横浜事業所
塩谷 茂隆	タカナシ乳業(株)横浜工場
田宮 勝彦	住友重機械マリンエンジニアリング(株)
山下 隆	日産自動車(株)追浜工場
岩本 宏之	(株)神戸製鋼所藤沢事業所
江島 秀利	(株)佐賀鉄工所藤沢工場
中村 治世	三菱電機(株)鎌倉製作所
田鎖 博美	日本精工(株)藤沢工場
島田 幸夫	新明和工業(株)特装車事業部 寒川工場
坂上 敏彦	横浜ゴム(株)平塚製造所

石 塚 智	スタンレー電気(株)秦野製作所
小 島 利 春	市光工業(株)伊勢原製造所
長谷川 洋一	第一三共ケミカルファーマ(株)平塚工場
磯 崎 昭 浩	富士屋ホテル(株)
内 藤 文 彦	三菱瓦斯化学(株)山北工場
橋 本 輝 夫	小田原紙器工業(株)
内 田 克 己	(株)東海ビルメンテナンス
座 間 光 雄	日産自動車(株)相模原部品センター
竹内 猪佐夫	菱重エステート(株)相模原支社
金子 奈津樹	(株)昭和真空
大 澤 康 郎	城山工業(株)
井 関 勝 美	自動車部品工業(株)
大 屋 誠 一	(株)中村屋 神奈川工場
池 田 都 子	旭硝子(株)相模工場
菅 原 健 太	森永製菓(株)鶴見工場
伊 藤 伸 也	三菱化学(株)
藤 田 賢 哉	JFEスチール(株)東日本製鉄所
中 島 重 文	光明理化学工業(株)
堀 内 利 治	(株)日産クリエイティブサービス追浜支店
坂 本 忠 義	(公社)神奈川労務安全衛生協会
佐 溝 矩 久	(公社)神奈川労務安全衛生協会
稲 垣 修 市	(公社)神奈川労務安全衛生協会
長 峰 勝 之	(公社)神奈川労務安全衛生協会
伊 東 忠 昭	(公社)神奈川労務安全衛生協会
伊 木 幹 夫	(公社)神奈川労務安全衛生協会
笠 島 彩 子	(公社)神奈川労務安全衛生協会

<支部別安全競争入賞>

優 勝	川崎北支部
準優勝	藤 沢 支 部
努力賞	横浜南支部
向上賞	相模原支部

(2) 厚生労働省

① 厚生労働大臣表彰及び顕彰

厚生労働大臣 優良賞

鹿島・佐藤特定建設工事共同企業体
さがみ縦貫城山八王子トンネル（その1-2）工事

厚生労働大臣 奨励賞

鹿島建設㈱横浜支店
戸塚駅西口第1地区第二種市街地再開発事業に伴う公益施設整備事業

厚生労働大臣 功績賞

米 丸 亮

安全優良職長厚生労働大臣顕彰

井 上 進 一 三菱化学ハイテクニカ㈱小田原テクノセンター
郡 山 勉 東芝マテリアル㈱

② 神奈川県労働局長表彰

神奈川県労働局長 優良賞

三菱レイヨン㈱横浜事業所
三菱化工機㈱本社・川崎製作所
日清ペットフード㈱鶴見工場
J X日鉱日石エネルギー㈱横浜製造所
㈱神戸製鋼所藤沢事業所
㈱ディスペンパックジャパン南足柄工場
山九㈱横浜支店厚木流通センター
ソニーL S Iデザイン㈱

神奈川県労働局長 奨励賞

サンアロマー㈱川崎工場
あすか製薬㈱川崎事業所
コバレントマテリアル㈱秦野事業所
日本エレクトロプレイティング・エンジニアース㈱
富士フィルムメディアマニュファクチャリング㈱
日立オートモティブシステムズ㈱厚木事業所
古河電工パワーシステムズ㈱横須賀事業所
㈱京急油壺マリンパーク

神奈川労働局長 団体賞
本牧地区安全衛生協議会

神奈川労働局長 功績賞
渡邊 一郎
飯田 昌興

神奈川労働局長 安全衛生推進賞
渡邊 泰夫
樋口 和夫
永田 勝彦
湯原 一成
森田 哲也

(3) 中央労働災害防止協会

① 緑十字賞

石村 文博 (株)明治ゴム化成
皆見 忠慈 (公社)神奈川労務安全衛生協会藤沢支部

② 中小企業無災害記録証

シシド静電気(株)新横浜工場	2,100日 (第2種)
東亜テックス(株)	750日 (第1種)
(株)富士防	1,800日 (第3種)
(株)富士通ファシティーズ・エンジニアリング あきる野事業所 厚木施設サービス課	4,500日 (第3種)
MGCロジスティクス山北(株)	2,700日 (第4種)

③ 全国THP推進協議会表彰

全国THP推進協議会 優良賞
Meiji Seika ファルマ(株)小田原工場